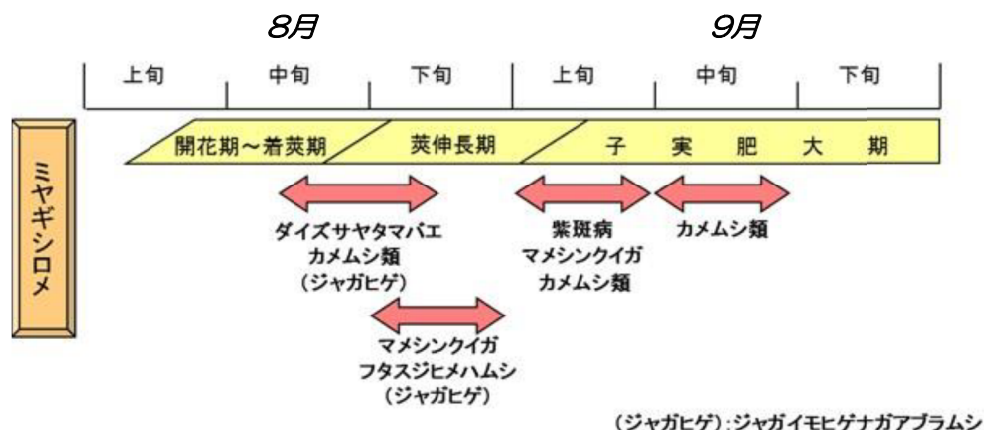


令和元年産 美里地区の大豆情報

第2号 令和元年7月22日
TEL:0229-32-3115 FAX:0229-32-2225

宮城県美里農業改良普及センター
http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/

〇病害虫防除のポイント



〇ジャガイモヒゲナガアブラムシは密度が高い場合に単独防除を実施する。
〇マメシンクイガ、フタスジヒメハムシは品種が異なっても発生時期は変わらない。

大豆病害虫の同時防除体系図

(1) 紫斑病

(ア) 開花期の20～40 日後に1～2回薬剤防除を実施してください。

(イ) 紫斑病は害虫との同時防除が可能です。大豆の生育ステージをよく確認し、適期に効率的な防除を実施してください。

(2) ジャガイモヒゲナガアブラムシ

(ア) 8月下旬から9月上旬に密度がピークに達するので、多発した場合は防除を実施してください。

(イ) 防除後も密度が低下しない場合や急激に密度が高まった場合には、薬剤の種類を変えて追加防除を実施してください。

(ウ) ジャガイモヒゲナガアブラムシは葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏によくかかるように散布してください。

(3) 吸実性カメムシ類

(ア) 開花期以降に発生が見られるほ場では、着莢期と子実肥大中期の2回薬剤を散布してください。

(イ) 越冬地（雑草地、山林等）付近では発生が多くなる恐れがあるので注意してください。

(4) マメシンクイガ

(ア) 大豆を連作すると発生が多くなるので、連作ほ場では特に注意してください。

(イ) 成虫の発生盛期は地域によって異なりますが、本県の場合は概ね8月第6半旬～9月第1半旬です。

※ 農薬使用上の注意

- ✓ 使用農薬については、使用回数、収穫前日数等を十分に確認して使用してください。
- ✓ 無人航空機による空中散布に当たっては、農薬使用基準及び散布基準を遵守するとともに、安全の確保に心がけてください。
- ✓ 病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、同一作用機構分類に属する剤の連用を避け、計画的なローテーションを組んでください。
(参考：農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ✓ 「蚕注意マーク」の表示がある薬剤は、事前に周辺の養蚕の状況等に注意を払い、残効性等の特性を考慮してから使用（時期）を決めてください。
- ✓ 農薬使用については、蜜蜂被害防止のため、周辺の養蜂家との間の情報共有に努めてください。
- ✓ 農薬を散布する際には周辺作物の収穫時期に注意し、農薬が飛散しないよう対策をとるとともに、散布農薬を必ず記帳してください。

農薬危害防止運動実施中！（6/1～8/31）